

広報つるおか特集号

# 平成29年度 鶴岡市決算特集



あつみ小学校 天魄山森林自然教室「サケの学習」

平成29年度は、総合計画後期基本計画を基に、文化会館整備等の大型投資事業を含め、各種施策を展開するとともに、「鶴岡市まち・ひと・しごと創生総合戦略」に基づき、本市の最重要課題である少子化・人口減少対策についても重点的に取り組んできました。

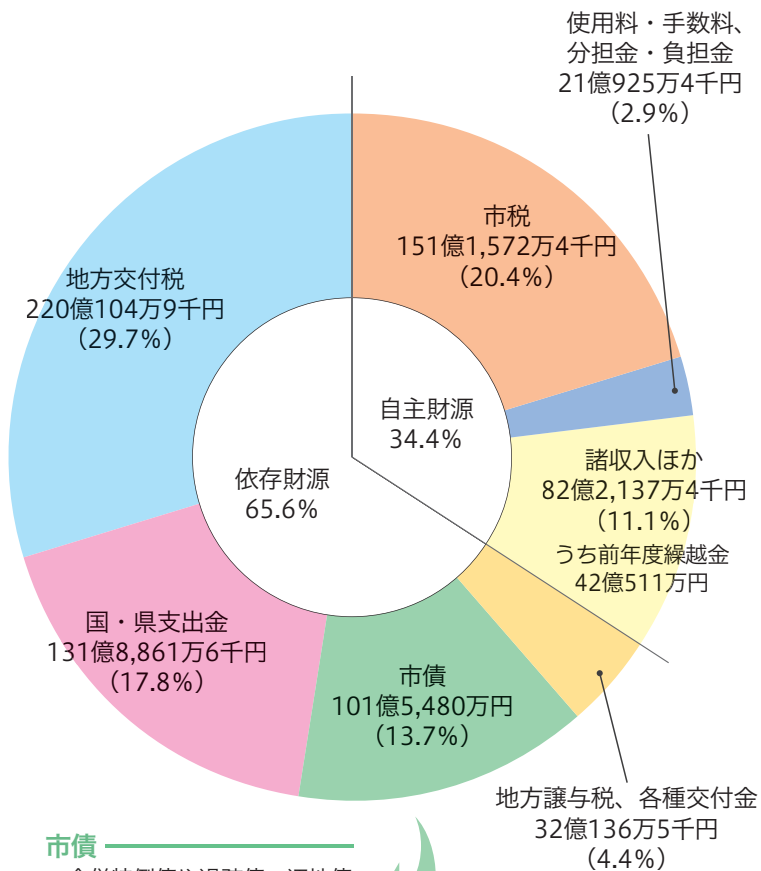
その一方で、将来の市政運営を見据えて財政構造の健全化にも取り組んだ結果、普通会計の実質収支は21億3,154万6千円の黒字となりました。

# 普通会計歳入決算額

## 739億9,218万2千円

(対前年度 +17億3,174万9千円)

グラフ①



### 市債

合併特例債や過疎債、辺地債など後年度に有利な交付税措置が受けられる起債を活用しています。

### 歳入の特徴

合併特例期間終了後の普通交付税の段階的縮減などによって、地方交付税が減少し、繰越金なども減少となる一方で、大型投資事業による市債の増や、市税収入の増、国庫支出金の増などによって、全体として増額となっています。

また、決算額としては、合併後最大規模となりました。

### 用語の解説

#### ■自主財源 市税などの自主的な収入

- 市税…市民税、固定資産税、軽自動車税、市たばこ税、入湯税、都市計画税など
- 使用料・手数料…市の施設の利用料、証明書発行手数料など
- 分担金・負担金…特定のサービスを受けた方が負担したお金
- 諸収入ほか…貸付金の元金収入など
- 前年度繰越金…前年度から繰り越したお金

#### ■依存財源 国や県から定められた額を交付されたり、割り当てられたりする収入

- 地方交付税…所得税等の国が徴収した税金の中から、市の財政状況に応じて交付されたお金
- 国・県支出金…特定の事務・事業のための財源として、国や県から交付されたお金
- 市債…投資的経費等に充てるため、国や金融機関から借りたお金
- 地方譲与税…国が徴収した自動車重量税等から配分されたお金
- 各種交付金…地方消費税交付金などの、国から配分されたお金

### 実質単年度収支

29年度は、大雪による除雪費用の大幅な増加や、普通交付税の段階的縮減などの影響を受け赤字となっていますが、28年度決算剰余金から、減債基金と公共施設整備基金に赤字額を上回る金額を積み立てており、それらを考慮すると実質的には黒字と言えます。

単年度収支 ⑥ = ⑤ - ⑤'	財政調整基金 積立金(★) ⑦	繰上償還金(★) ⑧	財政調整基金 取崩し額 ⑨	実質単年度収支 ⑩ = ⑥ + ⑦ + ⑧ - ⑨
▲19億1,740万9千円	2,610万9千円	9億9,678万7千円	-	▲8億9,451万3千円
▲5億6,481万9千円	1,927万2千円	9億 445万8千円	-	3億5,891万1千円
▲13億5,259万 円	683万7千円	9,232万9千円	-	▲12億5,342万4千円

⑤'…前年度の実質収支

★財政調整基金  
5 ページの用語の解説参照

★繰上償還金  
今後の財政負担の軽減を目的に、後年度に返済予定の市債の元金を前倒して返済するもの

# 平成29年度の 決算を報告します

## 歳出の特徴

臨時福祉給付金給付事業の終了等による扶助費の減少や、近年実施してきた繰上償還の効果などによって公債費が減少となる一方で、文化会館整備事業や鶴岡第三中学校改築事業等による普通建設事業費の増加や、大雪に伴う除雪対策事業による維持補修費の増加などによって、全体として増額となっています。

また、決算額としては、歳入同様に合併後最大規模となりました。

## 用語の解説

■**義務的経費** 支出が義務付けられているお金

- 人件費…市職員の給料、議員の報酬など
- 扶助費…生活保護費や障害者等への援助費等福祉のためのお金
- 公債費…市の借金返済のためのお金

■**投資的経費** 道路や建物の建設など、社会資本として将来に残るものに使われるお金

- 普通建設事業費…道路や学校など、公共施設の建設費など
- 災害復旧事業費…災害時の公共施設の補修費など

■**その他の経費** 市が行うサービスのうち、形を残さない性質のお金など

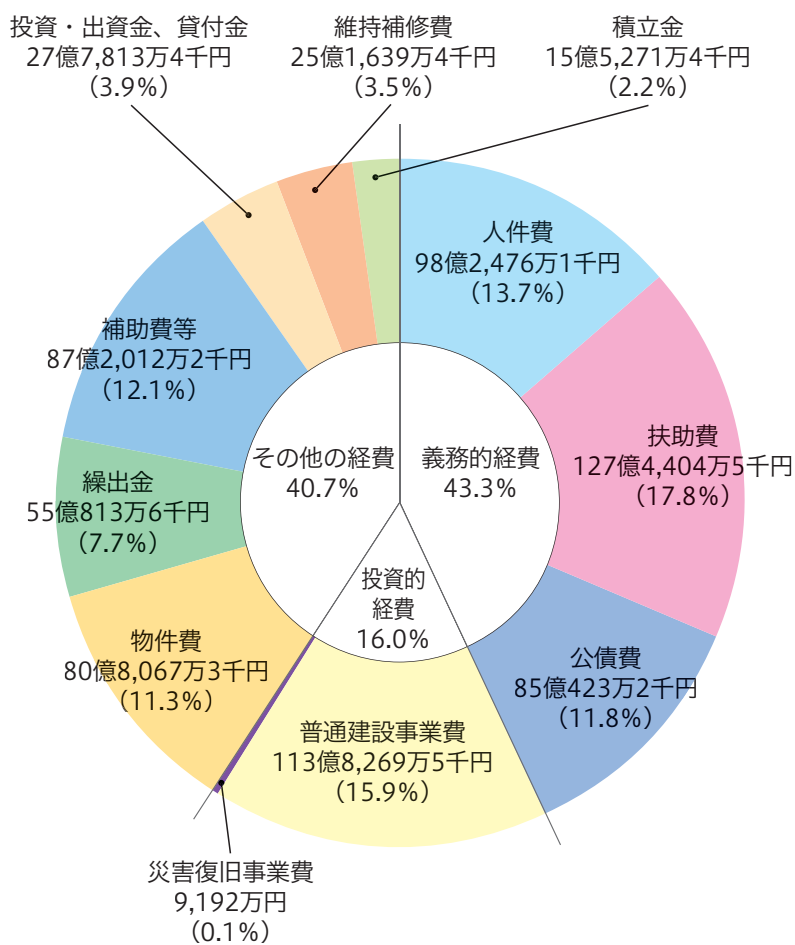
- 物件費…光熱水費や消耗品費、委託料、臨時職員の賃金など
- 繰出金…介護保険など他会計に繰り出したお金
- 補助費等…特定の事業や団体への補助金など
- 投資・出資金、貸付金…水道・下水道事業会計への出資金、中小企業金融に対する貸付金の原資など
- 維持補修費…公共施設や道路等の修繕費や除雪費
- 積立金…財政調整基金や減債基金のほか、特定の目的のために基金へ積み立てたお金

## 普通会計歳出決算額

グラフ②

# 717億382万6千円

(対前年度 +36億4,850万3千円)



## 普通会計決算収支の状況

	歳入決算額 ①	歳出決算額 ②	形式収支 ③=①-②	翌年度に繰越すべき財源 ④	実質収支 ⑤=③-④
平成29年度	739億9,218万2千円	717億 382万6千円	22億8,835万6千円	1億5,681万 円	21億3,154万6千円
平成28年度	722億6,043万3千円	680億5,532万3千円	42億 511万 円	1億5,615万5千円	40億4,895万5千円
増 減	17億3,174万9千円	36億4,850万3千円	▲19億1,675万4千円	65万5千円	▲19億1,740万9千円

# 平成29年度の状況

平成29年度は、合併特例期間終了後の財政の健全性に留意しつつ、総合計画後期基本計画に基づく戦略的事業や地域の特性を生かした地域振興事業などに取り組みました。

加えて、本市の最重要課題である少子化・人口減少対策についても、「鶴岡市まち・ひと・しごと創生総合戦略」に基づき、地域での雇用創出や移住・

定住の促進、若い世代の結婚・出産・子育て支援などに積極的に取り組んできたところです。

また、昨年3月に策定した行財政改革推進プランの下、組織や職員数、事務事業の見直しなどによる経常経費の削減、将来負担に備えた基金の拡充、市債の繰上償還などを実施しました。これらの結果、29年度の決算は、一定の剰余金を計上し、財政の健全性を維持することができました。

## 前年度と比べた主な歳入の状況（主な増減の理由） グラフ①・③参照

### ■自主財源

- 市税…4億5,949万5千円の増  
製造業・建設業の業況改善による法人市民税の増収や、新增築家屋の増加や一部企業の積極的な設備投資による固定資産税の増収等

### ■依存財源

- 地方交付税…9億1,478万9千円の減  
合併特例期間終了による普通交付税の

段階的縮減等

- 国庫支出金…1億6,856万2千円の増  
自立支援給付費負担金や学校施設環境改善交付金の増等
- 県支出金…1億7,592万2千円の減  
地域密着型介護施設等整備交付金の減等
- 市債…30億2,420万円の増  
文化会館整備事業や鶴岡第三中学校改築事業の実施等

## 前年度と比べた主な歳出の状況（主な増減の理由） グラフ②・③・④参照

### ■義務的経費

- 人件費…155万円の増  
市長・市議会議員選挙による時間外勤務手当の増等
- 扶助費…4億4,890万3千円の減  
臨時福祉給付金給付事業の終了等
- 公債費…8,034万7千円の減  
近年実施してきた繰上償還による市債償還額の減等

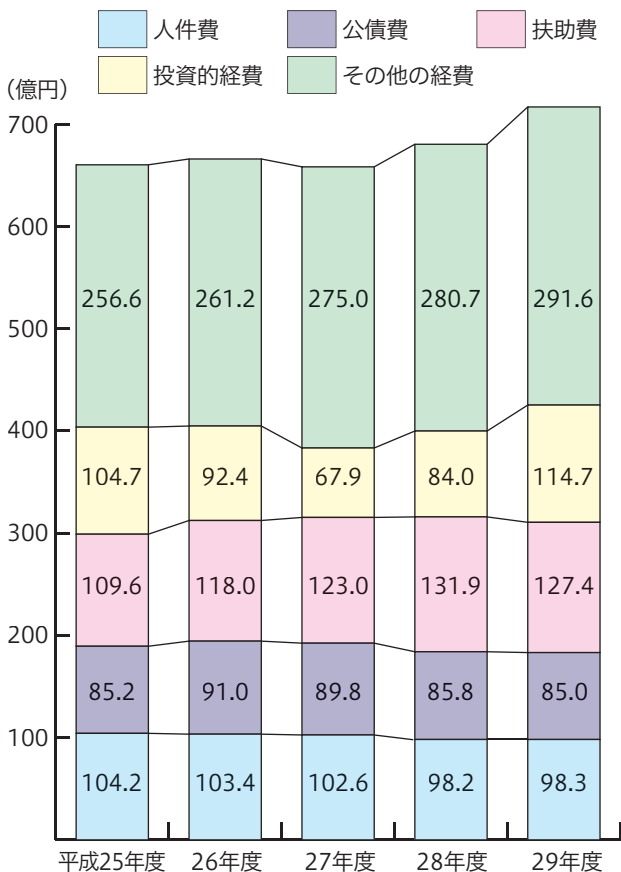
### ■投資的経費

- 普通建設事業費…30億8,961万2千円の増

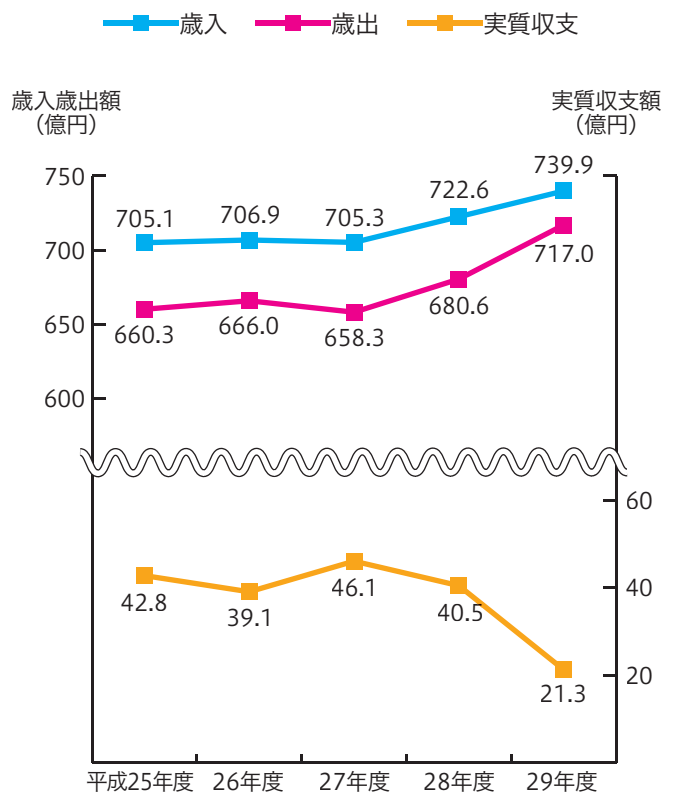
文化会館整備事業や鶴岡第三中学校改築事業の実施等

- その他の経費
- 物件費…1億2,501万6千円の増  
新文化会館開館による光熱水費などの増や、食文化情報発信拠点施設の整備による備品購入費の増等
- 補助費等…3億2,267万7千円の増  
企業立地促進に向けた各種助成金の増や、公共下水道事業負担金の増等
- 維持補修費…9億6,993万1千円の増  
大雪の影響による除雪対策事業の増等

## 普通会計の性質別歳出額の推移 グラフ④



## 普通会計の歳入歳出額と実質収支額の推移 グラフ③



## 鶴岡市の貯金額は？

積立基金(貯金)の総額  
**185億2,191万8千円**  
 (対前年度 +13億4,241万9千円)

積立基金の総額は、対前年度13億4、241万9千円の増となりました。

これは、中央工業団地水道整備事業に充当するため、中央工業団地内財産整備基金を6、919万円取り崩した一方、公共施設整備基金に8億5、906万円を積み立てたほか、減債基金に3億4、323万円、加茂水族館整備振興基金に2億4、829万円を積み立てたことによるものです。

こうした基金への積み増しによって、地域の振興発展に必要な財源と公債費の確保を図っています。

### 用語の解説

**財政調整基金** 地方公共団体における年度間の財源の不均衡を調整するための基金。経済不況等による大幅な税収減に見舞われたり、災害の発生等による思わぬ支出が増加したりした場合等への備えとして積み立てているもの

**減債基金** 地方債の償還及びその信用維持のために設置する基金。公債費の増加が地方財政の弾力性を失わせることから、公債費の償還を計画的に行うために積み立てているもの

**地域振興基金** 合併市町村が地域住民の一体感醸成や地域振興を目的に設置する基金

### 積立基金の状況(種類と年度末残高)

	平成26年度末	平成27年度末	平成28年度末	平成29年度末	
財政調整基金	49億8,565万円	50億1,017万円	50億2,945万円	50億5,556万円	
減債基金	27億1,655万円	34億4,210万円	41億7,363万円	45億1,685万円	
その他の特定目的基金	地域振興基金	40億円	40億円	40億円	40億円
	公共施設整備基金	14億1,488万円	10億1,806万円	18億2,600万円	26億7,291万円
	加茂水族館整備振興基金	4億293万円	6億8,583万円	9億4,203万円	11億3,373万円
	まちづくり基金	3億945万円	3億1,139万円	3億1,265万円	3億1,380万円
	その他	11億6,674万円	11億9,712万円	8億9,574万円	8億2,907万円
小計	72億9,400万円	72億1,240万円	79億7,642万円	89億4,951万円	
合計	149億9,620万円	156億6,467万円	171億7,950万円	185億2,192万円	

## 鶴岡市の借金額は？

市債(借金)残高の総額  
**744億8,037万9千円**  
 (対前年度 +21億7,061万1千円)

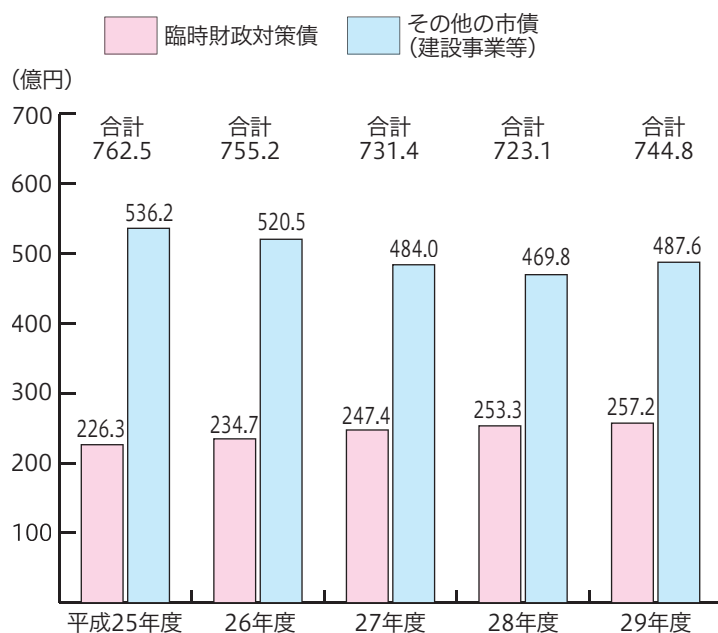
うち臨時財政対策債  
 257億1,977万5千円

市債の残高は、対前年度21億7、061万1千円の増となりました。

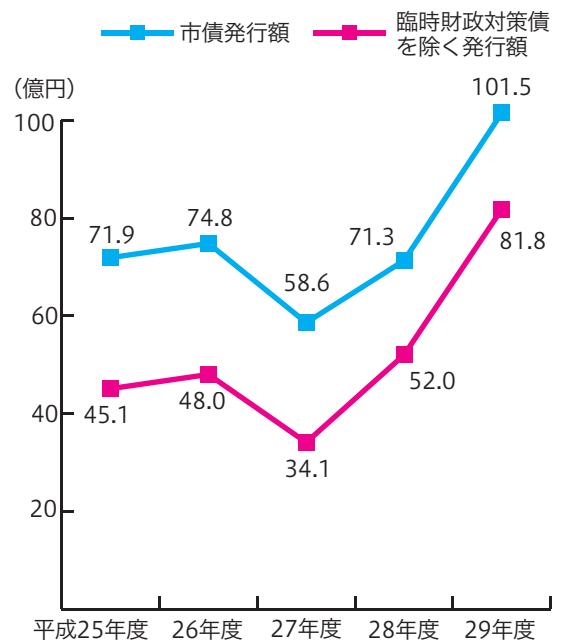
これは、文化会館整備事業や鶴岡第三中学校改築事業などの大型投資事業の実施によって、借入額が101億5、480万円となり、元金償還額の79億8、418万9千円を上回ったことによるものです。なお、この借金の中には、その全額が交付税措置される臨時財政対策債(★)も含まれ、それを除いた市債の残高は487億6、060万4千円で、対前年度17億7、749万2千円の増となっています。

また、借金をする場合でも、合併特例債や過疎債・辺地債などの交付税措置のある有利な起債を最大限活用し、将来負担の軽減を図っています。

### 市債残高の推移



### 市債発行額の推移



★臨時財政対策債

一般財源の不足を補うために特例で発行される市債。その全額が国から交付税措置される

## 経常収支比率

### 経常収支比率

平成29年度	89.1%
平成28年度	89.4%
増減	-0.3ポイント

経常収支比率とは、地方公共団体の財政構造の弾力性を判断する指標です。

経常一般財源等収入が経常的経費（人件費、扶助費、公債費等）にどの程度充てられているかを示しています。その比率が高いほど財政構造の硬直化が進んでいることを表します。

本市の経常収支比率は89・1%となり、対前年度で0・3ポイント低下しました。これは、物件費や維持補修費等が増となる一方、繰上償還を除いた定時償還分の公債費が減少することにも、扶助費等が減少したことなどが主な要因です。

## 財政力指数

### 財政力指数

平成29年度	0.417%
平成28年度	0.414%
増減	+0.003ポイント

財政力指数とは、地方公共団体の財政力を示す指標です。

基準財政収入額（普通交付税を算定するために、一定の条件で税収入等を基に計算した地方公共団体の収入額）を基準財政需要額（人口や道路延長等を基に計算した、地方公共団体が必要とする標準的な支出額）で割って得た数値の、過去3か年分の平均値です。

この数値が1・0を超えると普通交付税が交付されません。

29年度の数値は0・417であり、対前年度で0・003ポイント上昇しました。

## 財政健全化判断比率等

表①・②参照

「地方公共団体の財政の健全化に関する法律」に基づき、各自治体は財政健全性に関する比率（健全化判断比率、公営企業の資金不足比率）を公表しています。

各比率が基準を超えた場合は、財政健全化計画の策定等が義務付けられます。

鶴岡市の状況は表①のとおりです。

### ○実質公債費比率

実質公債費比率とは、地方公共団体の資金繰りの危険度を示す指標です。公債費のほかに公営企業債に対する繰出金や一部事務組合の公債費に対する負担金等を含めた実質的な公債費相当額が、標準財政規模（★）に占める割合を指します。近年は減少傾向にあり、29年度は7・2%で、前年度と比べ0・7ポイント低下しました。

### ○将来負担比率

将来負担比率とは、将来の財政を圧迫する可能性についての指標です。実質公債費比率の対象となっている公債費等に加え、第三セクターの負債のうち、市が損失補償や債務保証をしているもので経営状況等に応じて見込んだ負債額を合算した将来負担額が、標準財政規模に占める割合を指します。

29年度は、公営企業債残高の減

財政健全化判断比率等 表①

単位：%

指標	指標の意味	鶴岡市の数値	早期健全化基準 (黄色信号)	財政再生基準 (赤信号)
財政健全化判断比率	実質赤字比率	- ※1 (-)	11.49 (11.47)	20.00
	連結実質赤字比率	- ※2 (-)	16.49 (16.47)	30.00
	実質公債費比率	7.2 (7.9)	25.0	35.0
	将来負担比率	54.7 (61.2)	350.0	
資金不足比率 (公営企業会計ごと)	公営企業ごとの経営状況の深刻度を示す指標	- ※3	経営健全化基準 20.00	

( )内は28年度の数値

※1…本市の普通会計で実質赤字額は生じていない。

※2…本市の一般会計、特別会計等の全体で実質赤字額は生じていない。

※3…本市の全ての公営企業会計で資金不足額は生じていない。

## 財政健全化判断比率等の対象となる会計区分 表②

区分	会計名等		財政健全化判断比率	資金不足比率	
(普通会計等)	一般会計		実質赤字比率	資金不足比率	
	普通会計に属する特別会計	休日夜間診療所特別会計 墓園事業特別会計			
特別会計等	公営企業会計 地方公営企業法適用	病院事業会計	連結実質赤字比率	資金不足比率	
		水道事業会計			
		下水道事業会計			
		公共下水道事業 集落排水事業 浄化槽事業			
	上記以外の特別会計	国民健康保険特別会計			実質公債比率
		介護保険特別会計			
		後期高齢者医療保険特別会計			
一部事務組合・広域連合	公営企業会計 地方公営企業法非適用	庄内広域行政組合(青果市場事業特別会計)	将来負担比率		
		〃(庄内食肉流通センター特別会計)			
	上記以外の一部事務組合等	山形県消防補償等組合		資金不足比率は公営企業会計ごとに算定	
		山形県自治会館管理組合			
		山形県市町村職員退職手当組合			
		庄内広域行政組合(普通会計)			
		〃(庄内地方拠点都市地域事業特別会計)			
山形県後期高齢者医療広域連合					
三セクター 地方公社等	損補償または 失務保証を 負っている法人等	鶴岡市開発公社			

### 今後の課題

少や基金残高の増加によって、対前年度で6・5ポイント低下して54・7%になりました。この水準は、早期健全化基準350%を大きく下回っていることから、将来の財政運営に支障を来す状況ではないと判断されます。

### ▼合併特例期間終了後の財政運営

平成17年の合併以降、新市のまちづくりを進める中で、本市は国の様々な財政上の優遇措置を受けてきました。特に地方交付税は、合併する以前の市町村単位で算定する合併算定替えという有利な制度が適用され、1つの自治体として本来算定される金額より多く交付を受けています。

この優遇措置を受けることのできる期間(合併特例期間)は合併後10年間とされ、本市の場合は27年度まででした。28年度から5か年度をかけて段階的に縮減され、33年度にはこの優遇措置がなくなります。また、合併新市づくりのために発行できる有利な起債である合併特例債は、発行可能期間が再度延長されて37年度まで発行できることになりましたが、発行可能額は減少してきています。

このため、本市ではこれらの優遇措置の終了による減収を考慮しつつ、

### ★標準財政規模

その地方公共団体が標準的な状態で通常収入が見込まれる一般財源の規模を示すもので、通常水準の行政サービスを提供する上で必要な一般財源の目安

これからも必要な施策を着実に実行し続けることができるよう、健全な財政運営に努めていかなければなりません。

歳入は、自主財源の割合が34・4%で、国や県の交付金や補助金、市債等、依存財源に頼る財政構造です。そこで、安定的な収入となる自主財源の確保に向けて、税源のかん養、市税等の徴収率の向上、受益者負担の適正化を一層図っていく必要があります。

歳出は、義務的経費の割合が43・3%、経常収支比率が89・1%で、費用の増大を招かないよう、職員定数の適正化、事務事業の更なる見直しと効率化、経常経費の一層の節減、適正な優先度に基づく投資事業の実施に努めていく必要があります。

今後も、行財政改革に積極的に取り組む、より一層の財政の健全化を図りながら、市政の振興・発展と安全・安心な市民生活の維持向上のために必要な各種施策・各事業に着手に取り組んでいきます。

# 平成29年度の 特別会計と企業会計の決算

ここでは特別会計と企業会計の決算をお知らせします。これらの事業は営利目的ではなく公益的であるため、収入が不足する場合は一般会計からの繰出金を受けて運営しています。29年度の繰出額は、特に、国民健康保険特別会計（事業勘定）で、低所得の被保険者数に応じ、保険者に対する財政支援を拡充したため、対前年度で4,086万円増加しています。

★損益勘定留保資金  
収益的収支のうち現金の支出を必要としない費用のことで、減価償却費等があり、費用化して資本的収支の資金不足に充当することができる

特定の事業を特定の収入で賄う会計です。収支を明確にするため一般会計とは経理を別にします。

## 特別会計

会計名等	歳入決算額	歳出決算額	一般会計繰出額	主な事業の内容
国民健康保険特別会計(事業勘定)	158億7,433万円	151億1,091万円	9億3,655万円	国民健康保険の円滑な運営
国民健康保険特別会計(直診勘定)	3,946万円	3,946万円	1,526万円	上田沢・大網診療所の運営
後期高齢者医療保険特別会計	15億2,545万円	15億2,041万円	4億8,931万円	後期高齢者医療保険の円滑な運営
介護保険特別会計	158億2,066万円	155億 249万円	20億5,892万円	介護保険の円滑な運営
休日夜間診療所特別会計	1億 780万円	6,537万円	-	休日夜間・休日歯科診療所の運営
墓園事業特別会計	1,765万円	330万円	-	鶴岡墓園等の管理運営

### 病院事業会計

高度専門医療や急性期・救急医療を担う庄内病院と、回復期・慢性期医療を担う湯田川温泉リハビリテーション病院を経営しています。病院事業の会計には、診療等医療サービスの提供やこれに付随する病院運営についての収益的収支と、施設や医療機器の整備等についての資本的収支があります。

収益的収支は、入院・外来収益等収入は増加したものの、3億5、268万円の赤字でした。しかし、収益的収支には減価償却費等の現金を伴わない収支が含まれ、実質的な資金不足は生じていません。

資本的収支は、5億4、127万円の収入不足でしたが、不足分は過年度分損益勘定留保資金(★)などで補填しました。

病院経営を取り巻く環境は依然として厳しい状況ですが、医師確保に向けた取り組みの強化や経営基盤の安定化に努め、これからも庄内南部地域の基幹病院として地域の医療機関との連携を強化し、高度・良質な医療とサービスを提供していきます。

### 水道事業会計

水道事業は主に水道料金によって運営しています。その会計には水を供給するための収益的収支と、水道施設の改良整備等を行うための資本的収支があります。

収益的収支は、今年1月・2月の厳しい寒波で、凍結防止のために水を出し流した家庭などが増えたことにより、料金収入が対前年度で1,000万円の増収となりました。また、鶴岡市水道事業包括的業務委託の本格的な運用開始による職員数の削減などもあり、4億6、005万円の純利益を計上しています。

資本的収支は、水道管の耐震化工事や借入金返済等の支出があり8億2万円の収入不足となりましたが、不足分は損益勘定留保資金などで補填しました。

水道水の需要が年々減少し、経営状況が厳しくなっています。今後も経営効率化を図りながら健全な経営の維持に努め、本市の水道事業の基本理念である「地域とともに 信頼を未来につなぐ 鶴岡の水道」の実現に向けて取り組んでいきます。

### 下水道事業会計

下水道事業会計では、公共下水道事業、集落排水事業、浄化槽事業を運営しています。

平成29年度は汚水処理施設の統廃合を進め、昨年度の9施設に加え2施設を統合しました。また、企業債利息の償還が進み収益的収支で2億4、391万円の純利益を計上しました。

資本的収支は、未整備地区の解消を目指して鶴岡地域の未整備地区の新規整備や、茅原北土地区画整備事業に合わせた汚水・雨水の主要幹線整備などを行ったことで、25億8、575万円の収入不足(繰越財源除く)となりましたが、不足分については損益勘定留保資金などで補填しました。

このほか、鶴岡浄化センター内の「鶴岡バイオガスパワー」による消化ガス発電や、その余剰熱を利用した農作物のハウス栽培、また、30年度から実施している下水処理水での飼料用米栽培実験など、下水道資源を有効に活用するとともに、事業の健全経営に取り組んでいきます。



# 企業会計

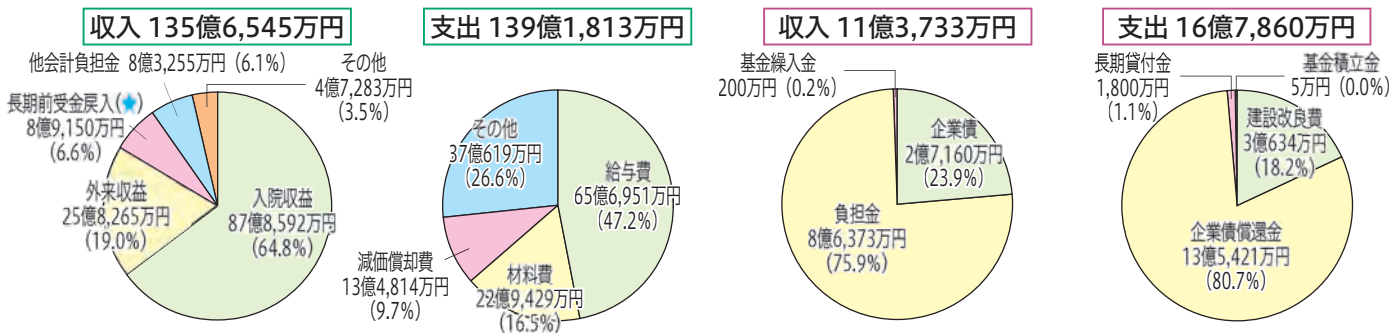
民間企業と同様に、事業の収益によって運営している会計です。地方公共団体が経営する企業を「地方公営企業」と言います。本市では病院、水道、下水道の3つの企業会計を設けています。

会計名等		収入決算額	支出決算額	一般会計繰出額	主な事業の内容
病院事業	収益的収支	135億6,545万円	139億1,813万円	8億3,255万円	病院事業の運営
	資本的収支	11億3,733万円	16億7,860万円	8億6,298万円	病院施設の整備等
水道事業	収益的収支	38億9,290万円	34億3,285万円	9,012万円	水道事業の運営
	資本的収支	1億1,750万円	9億1,752万円	3,027万円	水道施設の整備等
下水道事業	収益的収支	56億4,275万円	53億9,884万円	14億7,380万円	下水道事業の運営
	資本的収支	45億5,620万円	64億7,745万円	13億7,101万円	下水道施設の整備等

## 収益的収支

## 平成29年度 病院 事業決算

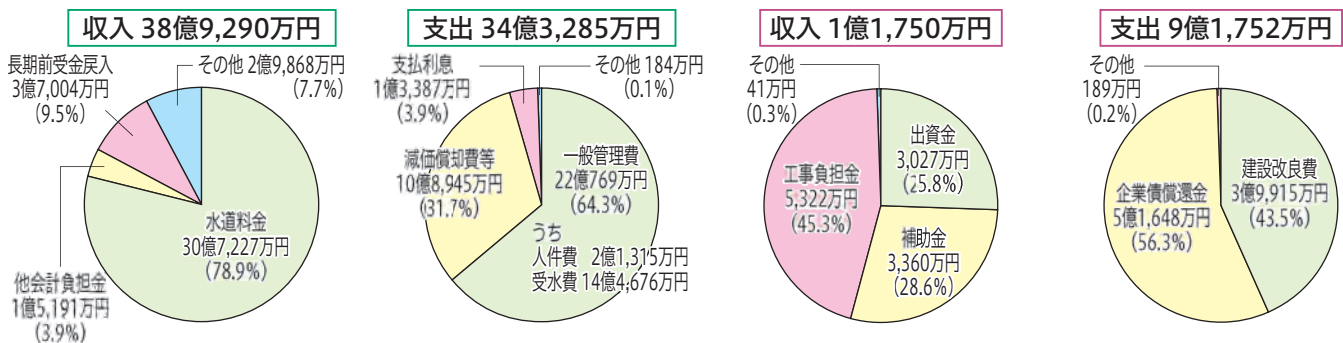
## 資本的収支



## 収益的収支

## 平成29年度 水道 事業決算

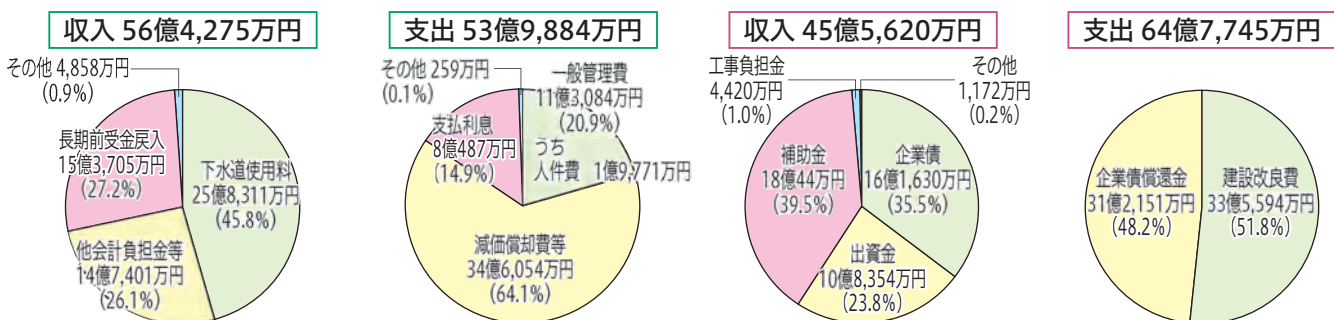
## 資本的収支



## 収益的収支

## 平成29年度 下水道 事業決算

## 資本的収支



★長期前受金戻入

補助金等を固定資産償却に合わせて収益化したもの

# 平成29年度 実施事業

平成29年度に実施した事業の一部を  
写真で紹介します。



## 庄内病院ドクター出前講座の開催

庄内病院と市民が相互に理解し合い、今後の地域医療を一緒に考えていくため、地域の公民館を会場に、同院の医師と住民が直接語り合える機会を設けました。



## 災害に強いまちづくり事業

住民とのワークショップ形式の意見交換会、避難所開設訓練等の実施によって、住民の防災意識の向上を図ったほか、市役所本所の屋上に非常用電源自家発電機設備を整備するなど、災害に強いまちづくりを進めました。



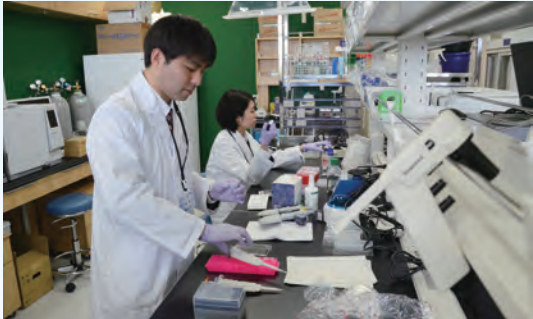
## 鶴岡第三中学校改築事業

鶴岡第三中学校の改築工事を行い、教育施設の整備充実を図りました。今年度2学期から新校舎の使用を開始しています。



## コミュニティセンター整備事業

旧田川小学校の校舎を活用し、田川コミュニティセンターとして整備しました。羽黒第四地区地域活動センター、長沼地区地域活動センターについても、旧小学校校舎を活用した整備を進めています。



## がんメタボローム研究推進事業

国立がん研究センターと慶大先端研が共同で取り組むがんメタボローム研究が、地域活性化につながるよう、県と協調して支援しました。



## がん検診受診率向上対策事業

死亡原因1位のがんから市民を守るために、日曜日がん検診、被扶養者の未受診者検診、障害者検診、夕方に行う乳がん検診等を実施し、受診機会の確保を図りました。日曜日がん検診では従来のがんに加え、子宮がん検診も実施しました。



## 文化会館整備事業

老朽化が進んだ文化会館を、本格的舞台と大規模ホールを有する新文化会館に改築し、芸術文化活動の環境整備を図りました。



### 特産物販売促進支援事業

トップセールス、首都圏飲食店への食材紹介、香港市場調査など、鶴岡産農産物等の活用を促し、販路拡大を図りました。また、海外や県外で販路拡大に取り組む農業者グループ等を支援しました。



### 食文化創造都市推進事業

イタリア食科学大学や辻調理師専門学校などと連携しながら、専門家の視点で本市食文化の価値を再評価することで、ブランドイメージの向上と魅力発信に取り組みました。



### 移住・定住促進事業

本市へのUターンを促進するため、市内在住者と帰省者の交流イベントや移住ツアーを開催するなど、県外在住者に対する積極的な情報発信を行いました。また、移住への不安を解消する場と機会を提供しながら、移住・定住人口の増加を図りました。



### 鶴岡ホストタウン推進事業

2020年東京オリンピック・パラリンピック開催に合わせ、ホストタウン相手国（ドイツ、モルドバ）との交流や事前合宿の誘致を行う「鶴岡ホストタウン推進委員会」の取り組みを支援しました。



### 国際観光推進事業

インバウンド（訪日外国人旅行）観光の推進を図るため、新潟市と連携した全日空機内誌やフランスの情報誌への掲載、訪日観光ウェブサイトへの記事掲載を行ったほか、国際交流員を任用し、情報発信力を強化しました。

また、観光案内所をマリカ東館1階のつるおか食文化市場FOODEVER内に移転し、外国語対応スタッフを常駐させるなど、観光案内所としての機能を強化しました。



### 地元出身学生等回帰促進事業

新たに仙台市での合同企業説明会や、高校生等の保護者を対象とした企業見学ツアーを実施するなど、積極的な情報発信によって地元を離れる若者の地元回帰への関心を高めるとともに、地元企業への就職活動をしやすい環境を整えました。

### 鶴岡まちづくりブランディング事業

若者を中心とした「ひと」を集めて中心市街地に「にぎわい」を創出し、まちづくりの拠点とするため、旧セントルを「まちづくりスタジオ鶴岡Dada」として整備しました。

## 〈藤島地域〉



### 藤島歴史公園の観光拠点化・魅力アップ促進事業 (藤島歴史公園「Hisu花」イルミネーション点灯式)

平成27年7月に誕生した藤島歴史公園「Hisu花」。「藤」をテーマとした公園の冬期間の魅力向上させるため、藤の花をイメージした幻想的なイルミネーションを設置しました。

## 〈櫛引地域〉



### 丸岡城跡史跡公園利用促進事業

丸岡城跡史跡公園の利用促進と、交流人口の拡大を図るため、「加藤家三代ゆかりの地のつどい・鶴岡」の開催や、観光ガイドの養成に対して支援しました。

## 〈温海地域〉



### 温泉街賑わいづくり促進事業 (あつみ温泉ばら園まつり&おもてなし祭り)

ばらが一番の見頃を迎える6月に2つのイベントを同時開催。相乗効果で、ばら園から温泉街にかけて周遊する観光客で大いににぎわいました。

平成29年度に  
各地域の特性を生かして  
実施した事業を紹介します。

## 〈羽黒地域〉



### 門前町歴史まちづくり活動支援事業 (門前町手向地区歴史的景観整備活動)

出羽三山の門前町の風情ある街並みを保全するため、地元住民が行った、老朽化した黒塀の塗装作業などを支援しました。

## 〈朝日地域〉



### 朝日地域市営バス運行事業

平成29年度に朝日地域の公共交通が再編され、庄内交通路線バスが運行されていた落合地区～大鳥地区、落合地区～田麦俣地区のそれぞれの路線について、廃止代替として新たに市営バスの運行を開始しました。

鶴岡市の財政・決算及びこの特集について、  
詳しくは本所財政課へ  
☎25 - 2111内線332  
✉zaisei@city.tsuruoka.lg.jp